

カトリック

広島教区報

No. 91

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

前田万葉司教メッセージ
教区の動き・聖ティエゴ喜斎の遺骨を迎え(II)
東日本大震災支援関連・JICA R.M. 訃報
地区・海峡からの風・施設
青少年・ひと粒

一面
二〜三面
四〜五面
六〜七面
八面

十字架立つ信仰年の宝船

カトリック広島司教区長
前田万葉司教

クリスマスと

新年のお慶びを
申しあげます

御父は御独り子を遣わす
ほどこの世を愛(大切に)
してください。御(独り)
子キリストは、神でありな
がら人間と同じものとなっ
てください、死に至るまで
しかも十字架の死に至るま
で、自分を無にして仕える
ものとなりました。それゆ
え、キリストは死に打ち勝
ち(永遠に生きる)復活の
栄光をお受けになったので



前田万葉司教

この宝物を積んだ船がカ
トリック教会なのです。『信
仰年』のシンボルマークは、
十字架をメインマストとす
る三つの帆が「イエス・キ
リストの十字架」であり、

背景の太陽とともに七つの
秘跡を代表するご聖体とな
り、七つの恵みを積んだ宝
船としての教会をイメージ
しているのです。日本文化
の「七福神を積んだ宝船」
に因んで、まさに「十字架
立つ信仰年の宝船」です。

わたしたち

信仰あるのみ初便り

新年のご挨拶(初便り)
で、「去年今年貫くバナー
や信仰年」といいますよ
うか「わたしたち信仰あるの
み初便り」といいますよ
うか、「信仰からの奉仕 信
仰への奉仕」を二年連続の
教区サブテーマとすること
になりました。前述の「三
位一体の神の救い」と「七
つの秘跡の恵み」に加え、
「聖徒の交わりによる永遠
のいのち」への信仰を再発
見しましょう、強めましょ
う、深めましょ

『信仰年』の恵みとして、



信仰年 2012 2013

新年に皆成れかしと
祈りつつ

「カトリック教会の教えを
知り、信じ、愛し、希望す
るよう促され、実りを得る
ことが出来る」ことをお祈
りいたします。

新年は広島司教区創立
九十周年です。百周年に向
けての十年計画として、特
に次の三つの目標を祈りの
うちに提案します。

- ① 津和野・乙女峠の殉教者
列福・列聖実現 Ⅱ 教区

② 五人から十人の教区司祭
誕生 Ⅱ 記念すべき九十
周年に、一人の新司祭
と一人の新助祭、二人
の新神学生が誕生する
ことを励みとして、毎
年二人ぐらいの神学生
を誕生させて実現に努
力する。そのためにも、
早期に教区予備神学校
を創設する。

- ③ 教区統一の教理テキスト
ト作り Ⅱ 初聖体、堅信、
結婚のテキストを作る。

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一三年度(第二回)

広島司教区宣教司牧評議会

会】

昨年十二月九日、二〇一二年度第二回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。前田司教、司祭、修道者、信徒の二十六人が出席した。

はじめに前田司教から「寒い中、日本海側は雪も心配でしたが、皆さんご苦勞様です。『信仰年』、教区創立九十周年に向け、要望等あれば、その都度、意見交換したいと思えます。」と挨拶があった。

議題は、まず来年度教区方針(年間テーマ)について、平和の使徒推進本部(以下、推進本部)から説明があった。

二〇一三年度年間サブテーマは、「信仰からの奉仕 信仰への奉仕」。

二〇一二年度と同じ年間サブテーマであり、その理由は、二〇一二年度始めの

前田司教メッセージにおいて、二年間、同じサブテーマにすることが発せられているためである。

決まった来年度のテーマ、サブテーマを各地区・ブロックに持ち帰り、各地区でどのように展開していくかを考え、終わりにはその評価もしてもらうこと。また、中長期的な教区の動きを見据えて、教区の方針(テーマ)を考えていくことが大切であるとの意見があった。

続いて『信仰年』の具体的な取り組みについて、前田司教から、以下のことが要望として出された。

- ①各小教区でミサを大切にす。ミサについての勉強もし、そのことをいかに主任司祭を中心に実施するかを話し合って欲しい。
- ②七つの秘跡を大切にし、より具体的な行動を展開する。
- ③教区のカテキズム講座を開き、積極的に参加してもらう。
- ④教区内の巡礼指定教会を巡礼するように促進する。

巡礼地を訪れることで、もう一度、信仰の再発見が出来る。

- ⑤それらの要望にともない、教区のカテキズム作成について、具体的に、教区で統一した「初聖体」「堅信」「結婚」のテキスト作成を検討する。



次に、『信仰年』の具体的な行事について推進本部から説明があった。

- 二〇一三年十一月二十三日(土・祝)十四時から、『信仰年』閉幕のプレイベントとして、Sr.渡辺和子(ナミユール・ノートルダム修道女会)をお招きし、講演会を開催する予定。
- 翌日二十四日(日)、『信仰年』閉幕ミサを世界平和

記念聖堂で行う予定。詳細は未定。

次の議題は、教区創立九十周年(二〇一三年五月四日)行事について推進本部からアイデア(案)の説明があった。

- ①九十周年の前夜祭として、五月三日の津和野乙女峠祭りの中で教区九十周年を祝う。
- ②各小教区で教会史を発行しているところはそれを見直すなどして、自分の小教区の歴史を振り返ってもらうよう呼び掛ける。十年後の百周年に向けた準備のためでもある。
- ③自分の教会をより知ってもらうために、写真と絵画を募集する予定。また、応募者から届けられた写真を活用し、新しい「教会案内」冊子を作成する予定。
- ④各小教区で、スタンプを製作してもらう。スタンプがない教会はこの機会に作る(約七センチ角・デザイン自由。費用は推進本部での負担も可能)。このスタン

プが各小教区に整備されれば、巡礼スタンプラリーのようなイベントが企画できる(「教会案内」冊子はスタンプラリー帳を兼ねる)。これも百周年に向けた準備のためでもある。

⑤広島教区民の顔写真を募集し、集まった写真を使い、モザイクフォトポスター(世界平和記念聖堂など)を作成する。

具体的な内容検討は、今後、推進本部を中心に検討される予定。この九十周年行事案において、次の意見が出された。

●教区創立九十周年として、過去を振り返ることも大切であるが、未来に向けた行事が必要である。未来に向けて準備することが大切。その行事を通して、カテキスタの養成に力を注ぐことが必要。

●教区として、まず、乙女峠の殉教者列聖への取り組みを呼びかけていくことは、百周年に向けての大きな行動と位

トゥアン助祭 司祭叙階式

日時：3月20日(水・祝) 14時～
場所：世界平和記念聖堂



司式：前田万葉 司教
受階者：ヨハネ ゲン・クアン・トゥアン
(広島司教区助祭 ベトナム出身)

猪口大記神学生 助祭叙階式

日時：3月2日(土) 13時～
場所：カトリック鳥取教会



司式：前田万葉 司教
受階者：マキシミアノ・マリア・コルベ 猪口大記
(広島司教区神学生 鳥取教会出身)

置付ける。その後、教区内の他の殉教者列聖、列福に向かうことができれば幸い。(前田司教) 教区宣司評の後半は、秋に各地区で行われた地区宣教司牧評議会の報告(活動報告、活動予定含む)、伯雲・ブロックからの報告があった。

また、ガイドライン英語版「Be Apostles of Peace」ができあがり、発刊されたところのお知らせがあった。教区ホームページに掲載しPDFデータとしてダウンロードが可能とのこと。詳しくは、各地区センター、平和の使徒推進本部まで。



ガイドライン英語版

以上のことが話し合われた後、前田司教が「皆さん一人ひとりの貴重な意見を大切にしていきたいと思います。」と挨拶され、祈りと祝福のうち三時間の教区宣司評を閉会した。



聖デイエゴ喜斎の遺骨を迎え (II)

シスター高木孝子
(ノートルダム清心女子大学学長)

前号に引きつづき、聖デイエゴ喜斎の生誕地・岡山とナミュール・ノートルダム修道女会との関わりについて、述べてみたいと思う。

イエズス会士・デーリング大司教は、一九二三年一月二十八日付の書簡をシスター・フランセスあてに再び出して、こう説明した――

岡山が大阪司教区から外される時、私たちの会の司祭と交替します。大阪司教区からの分離の日は、岡山の学校に新しいシスターたちが到着する日付によって決まります。さらに岡山が大阪司教区から分離されたら、私は早速東京から岡山に向かい、少なくとも数年間は教区長として岡山に住むつもりです。どうか早急に決定してください。ノートルダム会のシスターたちに初めてこの依頼をしてから、もうすでに六か月がたっていた。

公式の契約がまもなく結ばれ、四月十二日、渡米中の総長、シスター・マリア・ジュリアンと同行のシスターたちは、ナミュールに残っていた三名の本部評議員たちにその新しい宣教活動に関しての賛否を投票するように命じた。本部評議員たちは早速会議を開き、

投票を行った。その結果は「三者とも賛成」であった。それはすぐに総長が公式訪問中のフィラデルフィアに電報で伝えられた。新しい宣教は決定された。

デーリング大司教は、シスター・フランセスから手紙を受け取る前、四月二十四日付で、書簡を書いている――

こちらの宣教活動のため、いろいろなご尽力をいただいたことに対して深く感謝申し上げます。私は、最後には私たちの努力が実り豊かな成功をもたらすことを信じております。使徒パウロの言う「ことを起こす前には忍耐が必要だ」という言葉が、岡山の殉教者である聖デイエゴ喜斎の墓碑に記してあります。

八月十三日付の書簡で、デーリング大司教は布教聖省からの認可を受けつつたことを知らせ、その中で再び岡山での計画について雄弁に語っている――

まもなくノートルダム会の創立者マザー・ジュリー・ベリアートの娘たちが私の教区でイエズス会とともに働いてくれると思うと、喜びで胸が一杯になります。シスターたちがしなければならぬ仕事は大変だと思えます。しかし、岡山近郊で生まれ、最後まで岡山の教会を愛した殉教者、聖デイエゴ喜斎が必ずやわれわれを助けてくれることでしょう。

しかしながら、九月一日、日本は関東大地震にみまわれ、シスター・フランセスは、日本での新しい宣教活動はどういうことになるのだろうか、と思索していたのである。

東日本大震災支援

釜石便り

平和の使徒推進本部

シスター山本紀久代



写真は、仮設住宅でのクリスマス会の様子。仮設の住人さんと協力して作った赤いかごの完成を祝って撮りました。

わたしは広島から二〇一一年の六月に被災地... 震災後二回目の岩手の冬は結構寒いです。こちら釜石は海沿いということもあって内陸の遠野、花巻、盛岡と比べて積雪量はあまり多くありませんが、風は強く、小雪が舞うこともたびたびあります。今年のクリスマスは薄化粧していただきました。カリタス釜石ベースでは市内に六十六ヶ所ある仮設住宅のうち十三ヶ所で、社協さんや自治会さんなどと協力してお茶っこサロンを開いて

います。手芸をしたり、お話を耳を傾けたり、一緒に歌を歌ったり。仮設によっても、個人によっても差はありますが、基本は同じ。いらしてくださる方々がひと時苦しい現実を脇に置いて楽しくお茶を飲んだり、思い切り手芸などに没頭したり、気がかりなことを話したければ話していただく。普段隣近所を気にして大きな声を出すこともできないぶん、みんなで大きな声で歌っていた。一人きりで寒い仮設住宅にこもっているよりも、誰かの顔を見て、言葉を交わして、少しでも心を和らげ、心軽くなつてほしいと願いながら、毎週お訪ねしています。これは年末年始も同じです。こちらの活動の中で、幼子として私たちにプレゼントされたイエス・キリストの名前を表に出すことはありませんが、その方の思いが少しでも見える形になればと願い、地元の方々との交流を続けています。

仮設住宅での二回目の冬を迎え、被災者の方々は疲れ

広島司教区災害サポートセンター収支報告 (2011年4月1日～2012年12月28日現在)

収入	献金	12,463,808
支出	支出合計	2,843,802
	事務運営費	20,850
	振込手数料	20,850
	旅費交通費	541,052
	支援費(派遣者の経費を含む)	2,281,900
	経費	1,075,000
	送料	37,900
	物資購入 「地ノ森いこいの家」支援	169,000 1,000,000
繰越		9,620,006

仙台教区サポートセンター
カリタス釜石ベース

住所：岩手県釜石市大只越町
2-4-4 カトリック釜石教会内

電話・FAX：0193-27-9030

メール：kamaishi.vol@gmail.com

HP：http://ameblo.jp/kamaishi311/

して暖かくなつたら、ぜひ釜石に、大船渡に、あるいは石巻に、米川といったベースに、足を運んでみて下さい。きつと意味深い体験になることでしょう。お待ちしております。

黙想会にあずかって

倉敷教会 明神正子

玉野教会の金起キムキョウ聖神父様の講話による黙想会に参加しました。

信仰は神からの賜物で、神を仰ぎ見、みことばに生きる人、又信仰を伝える使命があり、信仰の種を保つため、①みことばを聴き、②祈りによって成長し、③教会の教えによって強められ、④ミサを通して皆一つに集められ、兄弟愛によって豊かに実ることである。それゆえ、行いが伴わない愛は信仰の実ではないとも言われました。

実践として、いつも共に居てくださる聖母マリアから五つの白い石を与えてくださる。それは、『断食と施し』『ロザリオの祈り』『聖体拝領』『ゆるしの秘跡』『みことば』。断食と施し、ロザリオの祈り、そしてミサに与えることは強い味方だと感じました。

今日頂いた恵みを心に留め「いつも目覚めていなさい。」と言われる方から呼ばれた時「ハイ。」と答えられるよう、又『信仰年』に相応しく信仰の種が成長できますように、みことばを聴く耳が与えられますように。



使徒ヨハネ野間重信神父(広島司教区司祭)が、2012年12月8日、呼吸不全のため、広島パークヒル病院で帰天。享年87歳。12月8日無原罪の聖母の祝日は、師の誕生日。1925年12月8日生まれ。1948年幟町教会にて受洗。1962年12月22日ローマにて司祭叙階。1965年より、幟町教会、廿日市教会、観音町教会、松江教会、岡山教会、福音の光修道院チャプレンなどを歴任。その間、司教顧問、地区長、幼稚園園長を兼任。



ローレンス・マクガレル神父(イエズス会)が、2012年12月29日、肺がんのため、シムラ病院(広島市)で帰天。享年65歳。1947年4月3日米国インディアナ州生まれ。1965年イエズス会入会。1981年長崎にて司祭叙階。1985年最終誓願。1986年よりエリザベト音大で助教授、教授、学長、理事長、名誉教授を歴任。



優勝チーム

日本にやってきた研修時間がかつてなかなか終わりません。

JiCaRM(広島便り)

『バスケットボール…最上の薬』
福山教会 パトリック神父(淳心会)

ファイリピンで最も盛んなスポーツとは、バスケットボールにほかなりません。子どもから大人に至るまでとても夢中になります。もしそこにコートがなくとも、子どもたちは道路横側にバスケットボードを作り立て、道路真ん中で楽しく遊び、車が通るときは、ゲームを一時中断します。こうして、ゲームは時間がかかってなかなか終わりません。

現在、大会が年に二、三回行われ、チームは高松、岡山、倉敷、福山、三原、因島等からなっています。今まで、一番多く参加したのは十九チームで三百人以上でした。その時の体育館を大船にたとえると、満員で沈みそうな船のようでした。本当におびただしい魚のようなファイリピン人たちが集まってきたのですから、こんな人数は教会で「見



バスケットボール委員会メンバー

たことがない！」と大変驚きました。やはり、教会よりもバスケットボールの方が楽しいのではないかと。でも、この機会を通して、多くが教会に繋がれるようになり、ミサにも与れるようになりました。

ファイリピン人たちにとって、バスケットボールは、日本での寂しさ、仕事の辛さ、状況の厳しさを癒す最上の薬です。もちろん彼らにとってもミサ自体は身体と心の最高の薬です。確かに、私は彼らと接しながら、そう感じて信じているのです。皆万歳！

地区便り

広島地区

*脱原発学習会

「福島の現状と内部被曝の危険性について」

今年二回目の学習会として二〇一二年十一月十八日に、フリーライター守田敏也さんを迎えて、愛宮サラーレ記念館に於いて講演会が開催された(主催:広島地区平和推進チーム・正義と平和広島協議会)。

守田さんは福島に何度も取材活動に通った事、そして、まだよく説明されていない内部被曝問題について話された。

福島原発事故当時、風の流れにより、どの様に放射能汚染が拡散されたかを地図で示された。未だに、高レベルに汚染された地域に暮らさなければならぬ現状の中、地域や家族が分断されている困難な状況についても話された。さらに内部被曝に関しては、食生活に注意しながら日々の生活を送ることの大切さ等が語られた。

この講演会については、広島司教区のホームページで見ることが出来る。

*広島地区の今後の予定

第三回脱原発学習会「福は内 プルトニウムは外」

講師:アーサー・ピナー
ドさん(詩人、随筆家)

場所:祇園教会

日時:二月二十七日(日)

十三時半~十五時半

平和アピール1981「なぜ教会は社会問題にかかわるのか」

講師:後藤正史神父(広島教区平和推進チーム担当司祭) / 「憲法について」石口俊一さん(広島弁護士九条の会)

場所:世界平和記念聖堂

ミサ:前田司教

日時:二月二十四日(日)

九時半のミサ~十四時

ぐらゐまで。

第三十回広島キリシタン殉教祈年祭

場所:己斐殉教碑~観音町教会

ミサ・講話:前田司教

日時:二月十一日(月)

祝)己斐殉教碑前九時半

集合~観音町教会十二

時解散

山口・島根地区

*二〇一二年年度養成関係

「山口教会待降節黙想会」

十二月九日(日)に、地区養成「霊操」の一環として山口教会で、英隆一朗神父指導の待降節黙想会が行われた。下関や宇部小野田ブロックからの参加者も含め、五十余名が参加した。

英隆一朗神父の黙想会は、待降節と四旬節に行われる。次回は二月十七日(日) 岩徳ブロック(徳山)の予定。



英隆一朗神父

*地区少年の集い

「釜山教区司祭叙階式参列と韓国を知る旅」

十二月二十六日(水)

二十九日(土)にかけて、

小六~大学生までの子ども

海峡からの風 27

下関労働教育センターだより

暦を巻き戻させまい

東ティモール支援の仲間から届く年賀状には毎年「ヒロシマ紀元」が記載されている。戦争が生命そのものの存続の危機を孕むようになった「ヒロシマ」。しかし、人類は核兵器・核抑止論は言うに及ばず、核の利用そのものを見直すきっかけをやり過ごしてしまった。

それから六十六年、私たちは「フクシマ」を迎えてしまった。彼の二〇一二年年賀状には「震災紀元」も記載されるようになった。「フクシマ」は人災であり、「文明災」とまで言われる様に、今度こそ私たちは人類のこれまでのあり方を見直し、「生き方」を見直すことが求められ、それが復興の基本となると思っていた。ところが現実には復興の名を借りた経済中心の開発やマネーゲームばかりが目立ち、災いの元凶であるはずの原発を再稼働させ、原発輸出を許して来た。「絆」という甘言を弄して、放射性物質を含んだガレキの拡散に心痛め

る人々を非国民呼ばわりし、抗議行動に参加する人への不当逮捕すら平気で行われる。

そんな「フクシマ紀元二年」が終わろうとする時の選挙の結果は、「フクシマ」どころか、「ヒロシマ」以前に戻らんとする考えの政治家が跋扈している。「ヒロシマ」以前に奪った多数の命や尊厳を省みず、九条の精神をないがしろにし、軍隊の復活を掲げ、原発はおろか核武装すら語られ、あたかもフクシマのごとき大言壮語や心地よく響く言の葉をあやつる人気者にすぎない政治。「ン」がいつのまにか消えることの無い様、キリストの歩みに倣って、祈り、行動するしかない。

下関労働教育センターは、日韓のイエズス会が協働で原発・平和(基地)・歴史認識・環境問題に取り組む活動の拠点としての働きを始めた。暦を巻き戻さんとする流れに抗う楔となるよう、力添えを願う。

(下関労働教育センター

大城研司)

七名とリーダー・引率六名が金助祭の司祭叙階式に参列するため釜山に出かけた。

*クリスマス市セレモニー

山口商工会議所が企画した「十二月、山口市はクリスマス市になる」初日イベントに、山口教会も協力。

山口市内では様々なイベントが十二月に行われているが、聖堂が会場になったのは初めてで、聖堂内で子どもたちのハンドベル演奏や亀淵友香さんの聖歌奉納が、広場では天使幼稚園の子どもたちの歌、最後は聖堂バルコニー一杯の市民有志による合唱団と亀淵さんによる「絆」ソングの熱唱で終わった。



サビエル記念聖堂（山口教会）前広場

備後ブロック

これまで備後地方にある四つ教会（三原、尾道、福山、笠岡）が、備後ブロックとして活動していましたが、笠岡教会が抜けて、広島県東部の三教会が、二〇一二年から新たに「備後ブロック」として活動を始めています。

これまで通り、年間の第五主日のミサを別の教会へ司祭がローテーションションをしていくこと、侍者合宿や研修会を共同で企画することなど、これまで通りの活動は続けていくことになっています。

その他として、『信仰年』に当たり、備後ブロック三教会が同じ『信仰年』のバナーを作成し、典礼色に併せて、聖堂に飾っていくことが決まりました。尾道教会でも、有志の皆さんで制作し、『信仰年』と典礼の季節を意識するために役立っています。



『信仰年』バナー

広島教区の施設 16 岡山南教会 ゆりかご保育園

宗教法人「カトリック広島司教区岡山南教会ゆりかご保育園」は一九六八年十二月一日に地域の要望にこたえて創設されました。当時岡山南教会は、集会所の時代であり、その世話をしておられた馬場先生ご夫妻が、「保育所不足で多くの子どもが、保育所に入れない。片や集会所は、平日部屋が空いている。どうかこの部屋を利用

して、保育所を開設したい。」と当時の野口司教に願われて、開設の運びとなりました。

本園では、キリスト教の精神である愛に基づき祈りの心、感謝と一致の心で仲良くできる相互愛を伝える教育を目指しています。そのため、カトリック教会の教育方針の助けをかりながら、具体的に次のような保育教育を行っています。また、モンテッソーリ教育も取り入れております。

「宗教的情操教育」日々の祈りや宗教教育を通じて優しい心、正しい心、感謝する心を育み、目に見えない心の成長を願っています。また、月数回、

礼拝堂の中で司祭による子どものお祈り、神様のお話の時間をもっており子ども達は、楽しみにしています。「縦割り保育と横割り活動」年齢の違う子ども達が一つのクラスの中で共に生活し、社会性を身につけると同時に造形・表現活動・運動

などは同年齢グループで行っています。少子化の現代、年長児は自分のできることを、自信を持って伝え、反対に年少児は年長者を見ながら早くあんなことも出来るようになりたいと習得しています。「家族的雰囲気」小人数の園として一人ひとりの成長にあわせた対応を心掛けています。その他、ハイキング・園外保育などを通しての「自然体験」、卒園旅行・観劇等を通しての「文化活動」も行っています。



青少年の活動

第二回万葉杯 ソフトボール大会

十一月三日、良いお天気にも恵まれ、第二回万葉杯ソフトボール大会を行うことができました。

今年は六チームの参加があり、約百二十人が集まりました。大型バスで来たチームもあり、みなさんの日をととても楽しみにしてくださいようです。司教様も参加され、一塁を守ってみごとな開脚でアウトをとって拍手喝さいでした。

結果は、一位呉、二位岡山南、三位三篠、四位福山、五位玉野、六位三原。

(福山教会 伊藤光子)



優勝した呉教会チーム



「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

岡山・岡山南教会 淳心会

アンリ・バディバンガ・チポタ神父

去年十月十一日に『信仰年』の開催が宣言されました。『信仰年』のために教皇様が出版された文書を読んでみると、「時が経つにつれて、新しいイデオロギーや流行に左右されながらも、具体的にどのよう

に自分の信仰を生かすことができるのか。」ということを我々に問い掛けておられるような気がします。この問いの答えに、教皇様は『「信仰年」は、世の唯一の救い主である主に対する誠実で新たな回心への招きです。』と述べておられます。

また、古い人を脱ぎ捨て、新しい命に生きることが、「上着を脱ぎ捨てること」に象徴されています。最後に主イエスは「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」と言われました。バルティマイは目が見えるようになった後、道を進まれる主イエスに従いました。

また、聖書ではマルコによる福音十章四十六、五十二節の中で盲人バルティマイをイエスが癒された出来事が一番のヒントです。

バルティマイの出来事は、すべてのキリスト者の生き方を示しています。それは、第一にまず信仰です。「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください。」そして第二に、悲しみや苦しみに失望することなく、救い主への希望に対する揺るぎない態度で辛抱強く「叫び続けた」ことです。

私たちが信仰によって、主の道を歩み続けています。主イエスはバルティマイに言われたように、すべての信者カトリック信者を派遣なさいます。そのために、教皇様は『「信仰年」の文書の中で、「キリスト信者は信仰を私的な行為と考へてはなりません。信仰は、主のもとにとどまり、主とともに生きようとする決断です。』と書かれました。そこで、すべてのキリスト者が社会のさまざまな場で信仰を恐れなく証しする喜びを見出して行くよう、強く奨められています。



(75)

人々から「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」と聞いた時、喜んで主に向かいま

ました。また、古い人を脱ぎ捨て、新しい命に生きることが、「上着を脱ぎ捨てること」に象徴されています。

中国ブロックカトリック高校生大会のご案内

日時：3月24日(日)～27日(水)
場所：ノートルダム清心女子大学一宮校舎
対象：中学3年生～高校3年生
テーマ：「信仰からの奉仕 信仰への奉仕～私に繋がっていない～」

『信仰年』は愛のあかしを深めるためのよい機会でもあります。私たちが中プロを通して共に価値のあるものにできますように…。Open your eyes!!!!!!

詳細は各小教区配布の案内をご覧ください。



学生時代から作文がどうにも苦手なのですが、昨年から教区報編集のお手伝いをしていきます。最近はお頼まれた事は、ともあれ「はい。」とお引き受けしてみるのがいいのではと。どうぞよろしくお願ひします。(つき)